

【専門教育科目/看護の統合と発展】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
緩和ケア論	NSP44_004	選択	1	4	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
小林 美雪 他	407	m.kobayashi	授業終了時、水曜日 16:00～17:00		
授業の目的・概要	緩和ケアに関する基本的知識を習得し、対象者とその家族に対する理解を深めるとともに、緩和ケアに求められる態度、技術を学習することを目的とする。緩和ケアの理念と対象となる人の全人的苦痛、倫理的課題について理解し、緩和ケアにおけるチーム医療の在り方と看護の役割について学ぶ。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・デバート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	緩和ケアは病をもつ人全てが対象になる。これまでの看護の学びを緩和ケアの視点から振り返り、自己の看護を考える機会にすること。授業中に提示する課題に取り組み、レポートとしてまとめること。				
教科書	系統看護学講座 緩和ケア第3版 /編:恒藤暁、田村恵子 /医学書院 /2020				
参考書	授業内で配布する。				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	緩和ケアの基本的知識および理念が説明できる。		HSU(1),NS(1)(3)		
②	緩和ケアの対象者および家族の全人的苦痛の特徴について説明できる。		HSU(1),NS(1)~(4)		
③	緩和ケアにおける倫理的課題について説明できる。		HSU(1),NS(1)(3)		
④	緩和ケアにおけるチーム医療と看護師の役割について説明できる。		NS(1)~(4)		
⑤	緩和ケアにおけるスピリチュアルな要素とスピリチュアルケアについて説明できる。		HSU(1),NS(1)(3)(4)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	緩和ケアの歴史と理念、日本の緩和ケアの現状、チーム医療の必要性などについて学習する。	講義	事前課題：教科書 p2～18 を読み、ポイントをまとめる。	3	
2	緩和ケアの対象者と看護の特徴について学習する。(全人的苦痛・意思決定への支援/緩和ケアにおける看護介入/ケアの場合)	講義	事前課題：教科書 p58～77 を読みポイントをまとめる。	4	
3	緩和ケアにおける対象者の身体的苦痛、心理社会的苦痛とケアの方法を学習する。	講義	事前課題：教科書 p80～85、p97～100,p116～123 のポイントをまとめる。	4	
4	緩和ケアにおける対象者のスピリチュアルな苦痛とケアの方法について学習する。	講義	事前課題：教科書 p130～138 のポイントをまとめる。 事後課題①：緩和ケアの全人的苦痛についてレポートする。	4	
5	緩和ケアにおける倫理的課題について討議する。(QOL/尊厳死/安楽死/鎮静など)	講義 グループワーク	事後課題②：ディスカッションを基に自己の意見をまとめる。	3	
6	看取りのケアと家族へのケアを学習する。(死が近づいた時の変化、予期悲嘆/悲嘆ケアなど)	講義	事前課題：p224～254 のポイントをまとめる。	4	
7	緩和ケアに関する制度について学習する。(がん対策基本法/医療費に関する制度など)	講義	事前課題：p6～7 の記述にある、がん対策の施策や制度についてまとめる。	4	
8	緩和ケアについて討議する。	グループワーク プレゼンテーション	事後課題③：討議内容を基に、自己の学びをレポートする。	4	
試	達成度評価・評価のポイント参照				

【専門教育科目/看護の統合と発展】

		達成度評価						
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
総合力指標	知識・技術力	30	50	0	0	0	100	
	思考・推論・創造する力	30	10	0	0	0	40	
	協同性・リーダーシップ	10	20	0	0	0	30	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0	
問題を発見・解決する力		10	20	0	0	0	30	
評価のポイント								
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点					フィードバックの方法	
試験	①	✓	緩和ケアの基本的な知識について、50%で評価する。					試験終了時に振り返りを行う。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
レポート	①	✓	授業を重ねる中での学びの深まりを課題レポートで50%評価する。 事後課題①② 各10% 事後課題③ 30%					授業中に助言を行う。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
その他	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
備 考								
他担当教員	吉岡 陸世							
教員の実務経験	科目責任者は看護師として23年の臨床経験があり、終末期患者の看護経験が豊富である。							
実践的授業の内容	実務経験のある教員の指導のもと、緩和ケアの基本的な知識について理解を深める。教員の経験からの実践事例を取り上げ、教科書を補強しながら学習する。							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>試験への「教科書持ち込み」は不可とする。</li> <li>感染症の状況などの社会情勢により再度シラバスの変更があることも考えられるので、その際は随時、お知らせする。</li> </ul>							